

# 愛隣館研修センターニュース 第74号

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町151 2F TEL 075-621-3849 FAX 075-621-1579  
 E-mail :airinday@sunny.ocn.ne.jp http://www.airinkan.net 振替 01020-5-39321  
 編集発行所：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者：平田 義

## “コーヒーのこと”

コーヒーは私たちが日常的に口にする飲物。全世界での1日あたりの消費量は約20億杯にもなるそうだ。大手企業がコーヒー市場を支配し、石油に次ぐ取引規模を誇る国際商品にしている。私たちは「おいしいコーヒー」にお金を払い続けている。しかし、コーヒー農家に支払われる代価は低く、多くの農家が困窮し、農園を手放さなくてはならないという現実。一体なぜなのか？

その疑問をひもとくために、こだわりのコーヒー焙煎家のオオヤミノルさんに、“コーヒーのお話し”を寄稿していただきました。

何か“コーヒーのこと”を書けとの依頼を安請け合ってしまう後悔の日々を送っています。何故なら、一言に“コーヒーのこと”といっても「原産地～カフェまで」だけでも沢山の山々、出来事・歴史が関わり、ボクごときコーヒー焙煎のオジサンには難しすぎる仕事だからです。しかし「ヤッパヤメマス」ともいかず、何かできる事はと考えた結果、ボクの一週間のコーヒー日記を記す事にしました。食べていくための真剣な仕事、それとは矛盾する少しだけリベラルな本性の間に出る言葉や文脈から、何か“コーヒーのこと”を読み取っていただければと思います。苦肉の策です。

11/2(日)焙煎。昼から・・・

道端にて缶コーヒーを買う。相変わらず「缶の方が高いのでは」という味!!ただ明日も又飲むのだろうと思う味・重さ・値段。グローバル企業ってヒドいなと思う。原産地に豆代金いくら払ってんだらうか?TVコマーシャル代金がボクにあればその金でメチャメチャウマイ缶コーヒーを焼くのになあと思う。昼からの焙煎ヤメ!ポーっとしていると値上げをお願いしていた店より電話で「値上げダメ」とのこと。「ブラック無糖でも飲んでろ」と思ったがもちろん粘り強いお願いを続けることに。

11/3(月)祝日 配達日

AM6:00に起き、ローリングストーンズをかけて京都へ2時間。カッチョイイ。何かって彼らは「原産地をだましてロック買ってそれに利益乗せてボクらに売ってない」ところかな・・・。原産地→だまし→問屋→のせて→ボク→のせて→お客。原産地からお客の間の利幅はものすごい。フェアトレードなんかもあるけど味安定せず。良い事している分マズイのもガマン!!というののもっともですが、本当にみんなガマンするのかなあ～。職人だけ上と下から「ガマン」させられて首くくっているのに。フェアトレードはいったい給料いくらもらってんのよ。本当。

11/4(火)

色々考えていて配達が遅くなり朝帰り。途中温かい缶コーヒー買うが間違えてブラック無糖を押す。AM4:20本当ツイテネエ～。少し寝てからフェアトレードの東ティモールを焼く用意。何トレードであってもアジアの豆とはより向き合っていきたい。一番近いコーヒーの友人たちの仕事に答えていきたいのです。ニッポン人はアジアの友人の仕事に真剣に答えねばならない。歴史的、又は将来的にも義務があるのは

間違いない。電話で「先週の東ティモール少し苦い」とのクレーム。「義務果たしてんだからニガイのはガマンしろ」と思いながら今週は改善すると約束する。

11/5(水)配達日

配達しながらコーヒー豆値上げのお願い。ツライ。「今は互いにつらい時。もう少しガンバレませんか。」と店主・・・。「テメー喫茶店何倍もうけてんね～このマスターが。」と思いつつ、「今後の喫茶店はコーヒーの利幅に頼らず他の商品と同じくお客が飲んで頂く品質を売っていきましょう。お金のない我々はそのやり方しかない。」と説得する。

説得してしまった手前、自分の仕事の内容、良いコーヒー豆を仕入れ続けるためのアイデア、もう一度練り直し・・・。大切なのはより高値なコーヒー豆を買う事。原産地の農業加工者により高いお金を払う事。彼らが自分の仕事を練り直せるだけのお金を払う事はウマイコーヒーの絶対条件だ。

ただ彼らの方が、ボクたちより金持ちになったらどうなるのだろう。少なくともボクらが無知無意識で彼らにしてきた事をボクらにするのだろう。せざるを得ないシステムが国際的な経済にはあると思う。

11/6(木)

一種類のコーヒーを中焼き、中深焼き、深焼きに焼き分ける仕事。

何年も付き合い特徴を良く知ったコーヒーでしかできない仕事だ。どんな銘柄のコーヒーも焼きが浅いとすっぱく、深いとニガイのだ。そういえばボクの父親なんかは、「オレはずっぱいコーヒーが好きだからモカを」なんて言ってたよなあ。残念。マチガイ。

中焼き一生の味をしっかりと出したコーヒー。

中深焼き一生の味と焼いた味の混ぜ具合が命。

深焼き一深い甘味。熱で変化した生の味のうま味。

今回はインドの豆。こいつとも長い付き合いだぜ。産地で豆の仕事をしている人たちとゆっくり話せる嬉しい仕事である。

11/7(金)

昼、一般のお客より「コーヒー上手く入れられない」との電話。お湯は80度に冷ましたか?粉の大きさは生米の1/3ぐらいOK?粉の分量はケチらずたっぷり使ってます?全てOK?じゃ今日は体調が悪いのでは・・・。いつもよりシブイとのこと。

このシブイはくせ者だ。生味のシブイか、焼いた焦げ味のシブイか。強い豆の焼ききれしていない薄皮(シルバースキン)のシブイなのか。会話のやり取りでは分からないのだ。一番気になるのはボクがチョット失敗したかもしれないのです。そのこと内緒で「では返品してください。もう一回焼きます。」ジャマクサイが缶コーヒではできない仕事である。ザマミロ。

おいしいコーヒのいれかた

① お湯を移しだし、お湯を85~90℃

② コーヒ豆の量 1/8分 30g  
お湯の量を加減は炭酸飲料くらいがよい。

③ 粉は平らに20gと入れて、上下に軽くお湯を注ぐ。

④ お湯の量を量るよ様に、お湯を注ぐ。

⑤ お湯を注ぐよ様に、お湯を注ぐ。

⑥ お湯を注ぐよ様に、お湯を注ぐ。

⑦ お湯を注ぐよ様に、お湯を注ぐ。

⑧ お湯を注ぐよ様に、お湯を注ぐ。

⑨ お湯を注ぐよ様に、お湯を注ぐ。

⑩ お湯を注ぐよ様に、お湯を注ぐ。

11/8(土)

夕方全然知らない人が訪ねてきた。「コーヒ買える?」という。何度もあることだが、イヤダナア〜と思う。「買えませんけどあげます」といって無料コーヒとサンプルというのをあげて帰ってもらう。

一回だけお金と交換することがとてもキライなのです。この気持ちはいつも上手く言えない。良い仕事をする職人の入る原産地から一回だけお金と交換するのもイヤダ...

11/5の国際経済がボくらに及ぼす不安感は、「一回だけお金と交換すること」を乗り越えなければ大きな不幸となり、現実となるのではないか。あの全然知らないオバサンはどんな人か知らないが、大きな不幸の現実としてボクの家に来たのだ。彼女からお金をもらわないことで、原産地の職人たちとの友情を育てられた気がする。

11/9(日)

明日配達分のコーヒを焼く。ハンドピックという作業(何万という生豆から一つ一つ悪い豆を取り除く仕事)を終え、あらかじめ温めた焙煎機に豆を入れます。時間と火の大きさと空気の入出・音・ニオイ・豆の色に注意し、コーヒに仕上げていく。最後の最後コーヒを機械から出す。数秒前にヒラメキ5秒早く出したり、20秒遅く出したりします。そして今日のヒラメキは大失敗...。このコーヒはできるだけ怒らないお客へ配達しよう。昔、失敗作は捨てていたのだが、ここ数年は捨てなくて良い失敗ができるようになった。でも長い付き合いのお客は失敗を見抜いてクリームをつける。ジャマクサクもうれしいクリームである。長い付き合いでボクの仕事の良し悪しを見抜いてくれるのである。一回だけお金と交換しないでよかったと思う。早く産地の職人にビミョウなクリームを付けられる職人になりたいと思う。明日から又同じことを何度も繰り返し、毎日腕を上げていこう。

どうでしょう。何気にコーヒの仕事のこと感じてもらえたでしょうか?自分で読み返してみても思うのはボクの仕事に強く影響を与えているのは上等なコーヒを消費する国とそれを生産する国、又は人と人の差であり、誰よりもうまいコーヒを焼きたいのも、誰にでもうまいコーヒを飲んでもらいたいのも全てその差を埋める作業になればよいという考えです。豊かな生活のためにも。コーヒの仕事の上達はコーヒにまつわる差を少しずつ埋めていく作業です。我々職人だけでなく、飲み手の方々も貧しい原産地ともしっかり対話してください。よりリッチなコーヒブレイクのためにも。

理想ですが原産地の人々に上等なコーヒを高値で売って彼らにリッチなコーヒブレイクを楽しんでもらえたら...。ボクの仕事は上達です。

オオヤミル

詩人 柏木正行さん (1947-2006) の 魂に触れる ⑦

人生の壁  
あなたも迷っているのですね  
自分のしている事が  
解らなくなったのですね  
人生の壁によつかったのですね  
希望が見えなくなったのですね  
自分の限界に気付いたのですね  
でも  
諦めないで下さい  
自分を投げ出さないで下さい  
あなたの人生は長いのですから  
壁は乗り越えられるのですから  
だから  
諦めないでください

—詩集 路 より—  
柏木正行著 明石書店

アジア国際夏期学校(SIEA)  
筑豊セミナーに参加して

森 拓平

今、世界は石油に代わるエネルギーを探す(開発する)ことに躍起になっているが、その昔、石炭がエネルギーの主流であった時代があった。山に穴を掘り、石炭のある地層を削り取る。どこまでも深く深く掘り進んでゆく。その穴は『炭鉱(たんこう)』と呼ばれる。日本近代化における経済的繁栄の歴史は『炭鉱』の歴史と言っても過言ではない。福岡県筑豊(ちくほう)にある炭鉱の、昔と今を見つめ続けてきた犬養光博さんに同行していただき、貴重なお話をききながら筑豊を巡ることができた。

～炭鉱で働くことは決して楽なことではなく、常に死と隣り合わせだった。けれどもそこには、貧しいけれども互いに支えあう人と人とのつながりがあった。強制的に連れてこられた韓国・朝鮮人にはさらに過酷な状況が割り当てられた。見知らぬ土地で過酷な労働を強いられ、賃金もろくに貰えず、祖国に帰ることなく骨となった彼らには、お墓など存在しなかった。ある者は日本人墓地の隅に、言われなければ墓石とは思えないボタ(石炭と共に出てきた岩)の下に葬られていた。(現在その名もなきボタのすぐ横には、「ミイの墓」といった犬猫の名前が記された石がいくつも並んでいた。)～

人として認められた者の最期でないことは明らかだった。なぜこの事実を当たり前になることが出来る機会がないのだろう。誰がどうやったらこの責任をとることができるだろう。僕には何が出来るだろう…。

現在の僕は、こういった歴史の下に発展を遂げた国「日本」に生きている。

韓国・朝鮮人強制連行、強制的な過酷労働の事実を謝罪の念をもって表現することができない国「日本」。炭鉱で失った多くの命と引き換えに莫大な利益をあげ、利益を独占し財閥となった祖父の血を継ぐ人、麻生太郎。飢える者や社会的弱者のことを考えることができるのだろうか？そもそも考える気はあるのだろうか？彼の目には今何が映っているのだろうか。

セミナーの夜、昔NHK特集に犬養さんが出演した時のビデオを観た。そこに映っている青年は、見た目こそ今とは別人だったが(笑)、今の犬養さんとも何も変わらなかった。(つれあいさんには「10年だけやってみよう」と約束したはずが…) 誰に指示されたでもなく、筑豊に居続けたこと。これからも自分がやっていきたいこと。40年という長い間変わらずに居続ける一人の人間の姿が、そこにもここにもあった。

先日、札幌にあるモエ沼公園に行く機会があった。イサム・ノグチが考えた自らの『墓標』とも言えるその公園は、季節を問わず、昼の姿も夜の姿もとでも美しく、そこに集う人々の心を癒す空間がそこにはあった。

運動や思想を後生に残していくことは容易ではない。が、何かを教える・伝えるというよりは、ただありのまま自分の思いと丁寧に向き合い、自分に嘘の無い様に生きていくことを本当に出来たものが、死後も生きることになるのだと感じた。犬養さん始め、筑豊で出会えた方々には、これからの自分を生かして生きるための大切なきっかけを与えられた気がした。感謝。

■ 2008年7-11月の行事報告 ■

- 7/6 医ケアネット京都
- 7/26 SIEA 開校式(第30回)2名がタイへ
- 8/16-17 向島伝道所『遊隣』キャンプ クッキング～
- 8/13-14 『遊隣』キャンプ 琵琶湖リゾートセンター
- 9/8,9,10,12 BBQ in 愛隣館
- 9/19 おおたか静流さん来館 素敵な唄をありがとう!
- 9/21-23 SIEA 筑豊セミナー
- 9/24 イエス団京都ブロック職員研修会  
祐村明氏にご講演いただきました



姫路セントラルパークとおふろ(^\_^)↑

- 9/27 スポーツ大会(ボーリング)
- 10/3 デイフェスタ
- 10/10-11 デイケア・シサムー泊旅行
- 10/12 野染めの会

「野染め、協働・共生の創出～自立支援法 いらない～」をテーマに、1m × 18m の布 5 本を、障がいのある人もない人も、子どもも大人も、みんなで一緒に染め上げました。12/23 にはその布を持って四條河原町にて「自立支援法いらん」のデモをします!

11/2 出口剛史さん Wedding!おめでとう!

11/5-6 デイサービス泊旅行

←東尋坊にて

←ゆのくにの森にて



- 11/16 SIEA 閉校式  
研修生報告会
- 11/23 向島にっこり  
フェスティバル!  
今年のテーマは「交流」!

http://www.sirinkan.net

☆ウェブサイト  
はじめまして

愛隣館  
研修センター  
on the web

# 介護スタッフ・ヘルパー募集

- 内容** ■ 愛隣デイサービスセンターでの日中活動・食事・入浴介助など  
障がい児・者へのヘルパー事業「ゆうりん」での移動支援・居宅支援
- 資格** ■ 資格の有無は問いません（「ゆうりん」は要ヘルパー資格）
- 時間** ■ 9:00-17:30の間 週2日からOK! 時間・曜日相談に応じます
- 時給** ■ 800円～1200円
- 休日** ■ 木曜・日曜・夏期・年末年始・GW
- 待遇** ■ 交通費実費支給(上限20,000円)、昇給有、自転車・バイク通勤可
- ※ 送迎時の運転手も募集しております!

## クリスマス献金のお願い

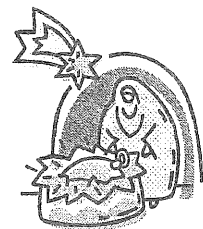
当センターが、この向島の地に誕生してから、早くも29年が経過しようとしています。今日まで、皆様方のご理解とご支援によって支えられ、活動を続けることが出来たこと、心より感謝します。

2006年10月よりスタートした稀代の悪法「障害者自立支援法」ですが、施行後1年も経過しないうちに、民主党のみならず政府与党からも「抜本的見直し案」が提出されるというお粗末な事態をまねいています。厚生労働省は、そのお粗末さを覆い隠すかのように、この4月より通所の事業所の報酬単価を4.6%引き上げ、7月には利用者負担のさらなる軽減を行いました。私たちはこのような小手先の「改正」に騙されてはなりません。この法律の基本的理念がおかしいことは明々白々であります。今の政府が推し進める「骨太の改革=社会保障費の削減」が、障がい者とその家族、またそこに関わる人々を苦しめています。私たちは、制度がどのように変化しようとも、障がいのある人のみならず、すべての人が大事にされる社会を目指して歩んでいきたいと願っております。

これまでも皆様方には多額の献金をして頂いているにもかかわらず、新たなお願いをさせて頂くのは、誠に恐縮ですが、今年度も「愛隣館研修センター・クリスマス献金」にご協力頂きますよう、改めてお願いを申し上げる次第でございます。

**クリスマス献金、目標金額 3,000,000 円**  
※口数、金額ともに任意です。

**送金方法** 郵便振替 01020-5-39321  
口座名：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター



☆お知らせ☆  
▽愛隣館研修センターは、十二月二十七日～一月四日まで冬期休館日とさせていただきます。

★編集後記★  
▼「7月号・冬号」完成! ◇いつものまにやら年末です◇時の流れの速さに感わされず、その時々最善を尽し、年末を乗り切りたいと思えます▼皆様からのご感想に励まされております◇今後ともお聞かせ下さい(さ)

★所長より★  
▼12月になりました◇街ではクリスマスイルミネーションがきらめき◇クリスマスソングが流れています◇キリスト教のお祭りであったクリスマスが今年年中行事の一つとなっています◇皆さんもご存知のように、クリスマスとはイエスキリストの誕生を祝う日です◇では、一番最初のクリスマスはどのようなものだったんでしょうか◇これは聖書の物語からきています◇そこに記されている出来事は、今のクリスマスとの喧嘩とは全く違うものであります◇イエスは家畜小屋で生まれ飼ひ藁桶に寝かされます◇そこに最初に訪れたのは羊飼いたちです◇当時の社会ではみんなから嫌われていた仕事についていた人々たちです◇最も弱く苦しい立場にあつた人々たちです◇まさに暗闇の中で生活をされていた人々たちです◇このように一番最初のクリスマスは、暗闇にいる人々に大きな光をもたらすものでした◇この意味をかみしめてクリスマスを迎えたいものです(ひ)